次の文章は、ある男が銭（ぜに）を落とした場面について書かれたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、銭百文を落としたりけるを、ある人**①拾ひて**、その主を尋ねて取らせければ、主、「わが落としたるは二百文なり。さては、百文を**②取り隠し**たるなめり」とて、**③取り合はず**。こと(注1)理(り)非(ひ)に及びて、賢き人の裁きけるは、「この主は、二百文落としたりと言ふ。拾へる人は、百文拾へりと言ふ。さらば、この百文は、この主の落としたるにはあらざりけり。別に百文落としたる人やあると、しばらく預かり置くべし。主は、二百文落としたる所を、またよく**④尋ね**よ」とて、拾へる人に取らせてければ、主、悔いけれど、かひなかり(注2)けり。

『沙石集（させきしゅう）』

（注1）理非に及ぶ：裁判沙汰になる。争いになる。

（注2）かひなし：どうしようもない。しかたがない。

問一　次の単語の「現代仮名遣い」を、すべてひらがなで書きなさい。

（1）拾ひて

（2）言ふ

問二　①～④のうち、その動作の主語が同じものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア①拾ひて

イ②取り隠し

ウ③取り合はず

エ④尋ね

問三③「取り合はず」とありますが、落とし主が銭を受け取らなかったのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選びなさい。

ア拾った人が、自分の知っている人ではなかったから。

イ中身が百文しかなく、自分が落とした金額より少ないと主張したから。

ウ正直に届け出た人に、お礼としてその銭をすべてあげようと思ったから。

エ裁判官に相談してからでないと、受け取ってはいけない決まりだったから。

問四　賢き人の裁き（裁判）の結果、最終的にこの「百文」はどうなりましたか。現代語で十字程度で説明しなさい。

問五　この話が伝えている教訓として最もふさわしいものを、次から選びなさい。

ア落とし物を見つけたら、すぐに役所に届け出るべきだ。

イ嘘をついて欲を出すと、かえって得られるはずのものまで失う。

ウ裁判をするときは、双方の言い分をよく聞くことが大切だ。

エ他人の持ち物を盗むような人間は、いつか必ず罰を受ける。

【解答と解説】

問一：（1）ひろいて
（2）いう
（解説：語中・語尾の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」に直す。）

問二：アとイ
（解説：①拾ったのは「拾った人」、②隠した（と疑われている）のも「拾った人」。③受け取らなかったのは「主（落とし主）」、④（もう一度）探せと言われたのも「主（落とし主）」。）

問三：イ
（解説：「わが落としたるは二百文なり（私が落としたのは二百文だ）」と言って、百文しかないのはおかしいと文句を言っている場面を読み取る。）

問四：拾った人に取らせた。（10字）
（解説：賢い人が「百文はお前のじゃないから、拾った人が持っておきなさい」と裁定した結末を書く。）

問五：イ
（解説：正直に百文受け取っておけばよかったのに、二百文だと嘘をついて欲張ったために、結局一文ももらえなかったという皮肉な結末から判断する。）

【現代語訳】
ある人が、銭百文を落としたのを、別の人が拾って、その持ち主を探して返そうとしたところ、持ち主は、「私が落としたのは二百文だ。ということは、（お前が）百文を盗んで隠したのだな」と言って、受け取らなかった。
（話がこじれて）裁判になった際、賢い人が裁決を下すには、「この持ち主は二百文落としたと言う。拾った人は百文拾ったと言う。それならば、この百文は、この持ち主が落としたものではなかったのだ。別に百文落とした人がいるかもしれないから、しばらく（拾った人が）預かっておきなさい。持ち主は、二百文落とした場所を、またよく探しなさい」と言って、拾った人に（百文を）取らせてしまったので、持ち主は後悔したが、どうしようもなかった。

次の文章は、ある男が馬を売ろうとする場面について書かれたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ある人、馬を**①売り**に、市へ行きける。男、その馬を見て、「いかほど(注1)なり」と**②問ふ**。主、「十貫(じっかん)(注2)なり」と**③答へ**ければ、男、「五貫にて買はむ」と言ふ。

主、「五貫には売るまじ(注3)」と言ひて、立ち去りぬ。のちに、主、「惜しきことをせり。五貫なりとも売りなまし(注4)」と悔いて、またその男を尋ねて、「五貫にて取らせ(注5)む」と言ひければ、男、「今は三貫にて買はむ」と言ふ。

主、また怒りて去りぬ。つひにこの馬、病みて**④死ににけり**。一文の徳もなかりけり。

『十訓抄（じっきんしょう）』

（注1）いかほど：いくらか。
（注2）十貫：お金の単位。ここでは高い値段のこと。
（注3）まじ：～ないつもりだ。
（注4）売りなまし：売ってしまえばよかった。
（注5）取らせ：与え。譲り。

問一　次の単語の「現代仮名遣い」を、すべてひらがなで書きなさい。

(1)言ひければ　(2)買はむ

問二　①～④のうち、その動作の主語が同じものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア　売り　イ　問ふ
ウ　答へ　エ　死ににけり

問三　「主」が、一度断った男のところへ再び行ったのはなぜですか。その理由として最も適切なものを次から選びなさい。

ア　馬が病気になってしまい、動けなくなったから。
イ　五貫でもいいから売ればよかったと、後悔したから。
ウ　他の人がもっと安い値段でしか買ってくれなかったから。
エ　男が「やっぱり十貫で買いたい」と言ってきたから。

問四　「主」が再び男に会ったとき、男は馬をいくらで買うと言いましたか。本文から抜き出して書きなさい。

問五　この話が伝えている教訓はどのようなことですか。最も適切なものを次から選びなさい。

ア　病気になった動物は、すぐに医者に見せなければならない。
イ　一度決めた自分の意見は、最後まで変えないことが大切だ。
ウ　あまり欲を出しすぎると、かえってすべてを失うことになる。
エ　買い物をする時は、できるだけ安く値切るのが賢い方法だ。

【解答と解説】

問一：(1) いいければ　(2) かわん

問二：ア、ウ

（解説：①は主、②はある男、③主は主、④はこの馬がそれぞれの主語にあたる。

問三：イ

（解説：一度断って立ち去った後に、主が「五貫なりとも売りなまし（五貫であっても売ってしまえばよかった）」と後悔（悔いて）している記述が直接の根拠となる。）

問四：三貫

（解説：二度目に会った際、男はさらに値を下げて「今は三貫にて買はむ（今は三貫で買おう）」と言っている。）

問五：ウ

（解説：五貫で売れるチャンスを欲張って逃した結果、馬が死んでしまい、一文も手に入らなかったという結末から、欲張りの失敗を戒めている。）

【現代語訳】

ある人が、馬を売りに市へ行った。ある男がその馬を見て、「いくらだ」と尋ねた。持ち主が「十貫だ」と答えたところ、男は「五貫で買おう」と言った。

持ち主は「五貫では売るつもりはない」と言って立ち去った。その後、持ち主は「もったいないことをした。五貫であっても売ってしまえばよかった」と後悔して、またその男を捜して「五貫で譲ろう」と言ったところ、男は「今は三貫で買おう」と言った。

持ち主は、また怒って去ってしまった。とうとうこの馬は、病気になって死んでしまった。一文の得にもならなかったのである。